



環境白書(概要版)の刊行にあたって

広島県知事 藤田 雄山

私たちは今、地球温暖化をはじめとするさまざまな環境の危機に直面しています。

この危機を克服し、健全で恵み豊かな環境を次代に継承するためには、私たちのライフスタイルや事業活動のあり方そのものを見直すことが求められています。

このため、本県の総合計画「元気挑戦プラン」では、重点政策の一つとして、地球・地域環境の保全や循環型社会の構築などに取り組むこととしています。

循環型社会の構築については、昨年度、県や市町の廃棄物対策の基本となる第2次廃棄物処理計画を策定し、更なる3R(リデュース:発生抑制, リユース:再使用, リサイクル:再生利用)の推進など、循環型社会の実現に向けた取組を強化することとしました。

また、地球・地域環境の保全については、本年4月に京都議定書の約束期間がスタートしたことや、7月の洞爺湖サミットの開催を契機として、本県では、「1人1日1kgの二酸化炭素排出量の削減」を目標とした「広島発・ストップ地球温暖化 県民運動」を7月から展開しています。

地球温暖化問題は、決して「誰かが解決してくれる」ものではありません。県民一人ひとりが、自分のこととして受けとめ、ライフスタイルを見直し、身近なこと、すぐにできることからエコライフを実践して、取組の輪を広島県から広げて参りたいと思っております。

この白書は、本県における環境の現状や課題に対する取組などを幅広く掲載しています。

本書を通じて、県民の皆様が、自らの行動と環境との関わりについて、認識を一層深めていただくとともに、環境創造の輪が広がっていくことを期待しております。

平成20(2008)年9月



「広島発・ストップ地球温暖化 県民運動」ロゴマーク